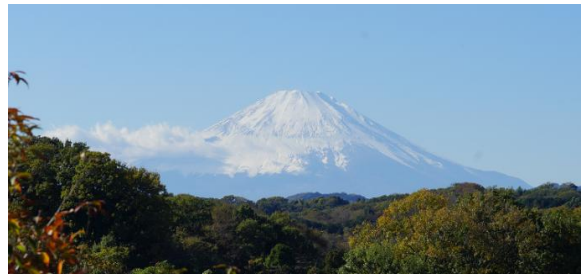


<小雪>この半月は24節季の立冬から“小雪”、そして“さざんか梅雨”と言われる通り晴れた日が少なく日によって日中の気温の差が大きい半月でした。そんな中、久しぶりに姿を現した富士はもう冬です。また陽の差さない日が続いた



後の青空にかかる雲はひときわ輝き秋から冬を感じさせる姿でした。

<晩秋の彩>花の少ないこの時期に“サザンカ”の赤、白は垣根や植え込みで映えます。漢字“山茶花”の通りチャやツバキの仲間



<サザンカ>

です。垣根の花を見ると「さざんか さざんか さいたまち たきびだ たきびだ…」という童謡「たき火」(巽聖歌作詞、渡辺茂作曲)を思い出し、たき火→焼き芋、そしてたき火→落ち葉→紅葉と想いが連なります。

柿の葉は緑から朱色に変わり早々と散ってしまいましたが、サクラ、ツタやハゼはそれぞれ異なる彩の紅葉をまだ残しています。これらにカエデの紅葉が加わるともっと映えますがこれからです。ところで「ちはやぶる



<カキの紅葉>



<オオシマザクラの紅葉>

神代もきかず竜田川からくれなゐに水くくるとは」(小倉百人一首、在原業平)の“からくれなゐ(韓紅)”に染めるのは色とりどりの木々のどれでしょうね。



<ツタの紅葉>



<ハゼの紅葉>

(韓紅) 80 近くある赤系の日本の伝統色の一つ。



<珍しや>キノコの季節が過ぎつつあるのですが近くの芝地に目をやると、小さなトゲ(?)の一杯に付いた真っ白で丸い菓子のようなキノコが生えていて次第に大きくなってきました。キャンパスでは初めて見かけたのですが“ヒメホコリタケ”(左写真)というゴルフ場の困りもののようなものです。確かに周りの芝は枯れていました。もう一つ、初めて目にしたのがモンウスギヌカギバ(右写真)という何とも不思議な模様を持つ蛾(ガ)です。



(文と写真：松本正勝)